

政策研究大学院大学  
第10回 アフリカ産業戦略勉強会

# 「日本・アフリカ産業協力強化への 新戦略提案」

2010年8月5日(木)



Komatsu Research & Advisory  
代表 小松 啓一郎

## 目次

- I. 1990年代の世銀マダガスカル・プロジェクトにおける経験の総括と教訓
  - ・日系中小企業進出促進の手法と努力
  - ・現地地場企業支援の手法と努力
- II. 日本・東南アジア・太平洋圏の経験が活かせるか
- III. アフリカ開発手法に関する新提案
  - ・官民それぞれの役割を意識した戦略的連携強化
  - ・日本の産業振興策等の経験から学べること

## I. 1990年代の世銀マダガスカル・プロジェクトにおける経験の総括と教訓

### マダガスカル



## 1995年秋(9月) マダガスカル

### 1995年秋 マダガスカル

過去数年間の現地経済調査（世銀  
ユング・リー博士）の詳細分析

首都にて現地政府・商工会議所・  
業界団体・企業との面会・説明

現地駐在日系企業への説明会開催

ファシリテーター選定（3人）

## 1995年秋 マダガスカル

在アンタナナリボ日本大使館との協議

英国大使館および米国大使館との協議

EU代表部との協議

現地にて世銀・EU間調整会議開催

その後、日本語メディアでも発表

7

## 1995年秋 マダガスカル



8

## 1996年春(3月下旬~5月上旬) マダガスカル

### 1996年春 マダガスカル

全土フィールドトリップ

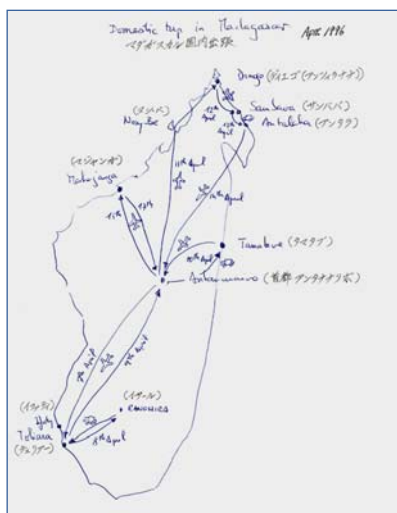
現地企業へのインタビュー・情報  
収集

現地ラジオ番組出演  
(於マジュンガ)

各市町村で地域経済開発ブレーン  
ストーミング実施

# マダガスカル全土フィールドトリップの行程

手段: 飛行機・車・徒歩



11

# 1996年春 マダガスカル



南西部Toliara-Ifaty間

12

## 1996年初夏(5月中旬~7月上旬) 日本

### 1996年初夏 日本

地球環境平和財団 (FGPE) および時評社に  
協力要請

- 特異な環境下のマダガスカルを考慮し、FGPEに日本側の  
オペレーション協力を依頼

セミナー開催 (2回・参加計65社)

フォローアップ (個別訪問)

現地ミッション (申込57社⇒参加43社)

- 半数はFGPEのネットワーク

## 1996年初夏 日本



15

## 1996年夏(6月~7月) マダガスカル



## 1996年夏 マダガスカル

現地ミッション  
(6・7月に5チーム・計43社)

- 原則的に世銀側が航空券負担

「世銀短期アドバイザー」として、参加各自がセクター報告書作成

キックオフセミナー

17

## 1996年夏 マダガスカル

個別マッチメイキング

臨時セミナー開催 (宝石業界)

日・マ合同セミナー開催

記者会見 (総括)

18

## 1996年夏 マダガスカル



19

## 1996年夏 マダガスカル



20

## 1996年夏 マダガスカル



21

## 1996年夏 マダガスカル



22

## 現地ミッションの成果

商談成立（商品輸入・技術協力 計16件）

姉妹都市契約1件

世銀支援下でFASP（Fonds d'Appui au Secteur Privé）の設立

参加企業同士の交流会立ち上げ

- 地球環境平和財団（FGPE）が受け皿となり、同窓会・会報発行などの活動継続（1年半程度）

空港-都心間の道路建設設計支援（4年後）

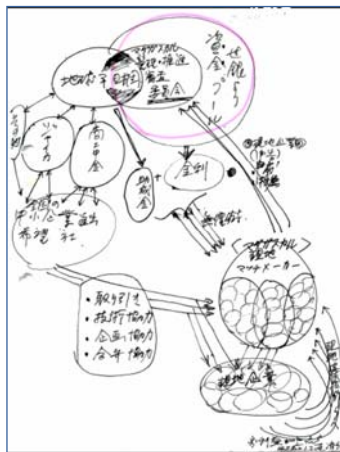
23

## 現地ミッションの成果



24

## 現地ミッションの成果



FASP構想のオリジナル・メモ



参加企業同士の交流会機関誌

25

## 1990年代世銀マダガスカル・プロジェクトからの教訓

### 成功のポイント

- 事前に現地での入念な仕込み
- 潜在的参加企業への個別訪問による地道な説得活動
- 参加経費は世銀・企業が折半負担
- メディアを活用した広報活動

### 改善点

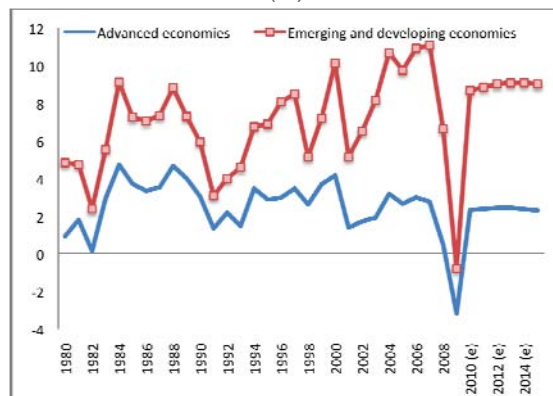
- フォローアップ・スキームの欠如
- オタク的に入れ込んだスキーム・リーダーの人材不足

26

## Ⅱ. 日本・東南アジア・太平洋圏の経験が活かせるか

### 成長格差：先進国 vs. 新興国

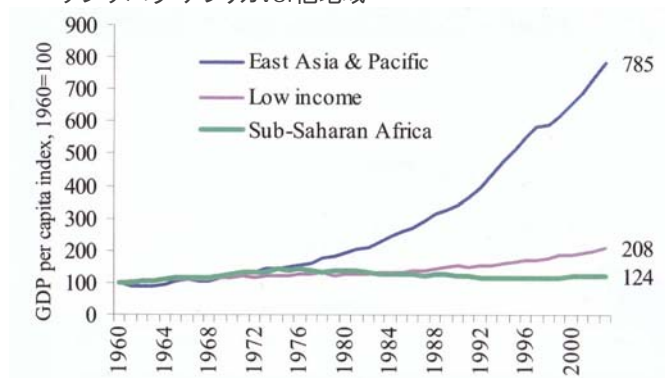
実質GDP前年比伸び率 (%)



Source: IMF, World Economic Outlook, April 2010

## アフリカの出遅れ

国民一人当たりGDP成長率：  
サブサハラ・アフリカvs. 他地域



Source: Benno Ndulu et al, Challenges of African Growth: opportunities, constraints and strategic directions, The World Bank, 2007

29

## 「日本を忘れるな」

- ▶ 日本は依然として世界第2位の経済大国

実質GDP(2008年)\*

	US\$ bn	%
US	9,463	25%
Japan	3,826	10%
China	2,370	6%
Germany	2,324	6%
France	1,727	5%
Top 5	19,710	53%
Rest of the world	17,415	47%
(incl. Africa)	999	3%
World	37,124	100%

一人当たりGDP\*

	US\$
US	45,230
Japan	38,578
Brazil	8,311
Russia	11,858
India	1,061
China	3,292
World	9,012

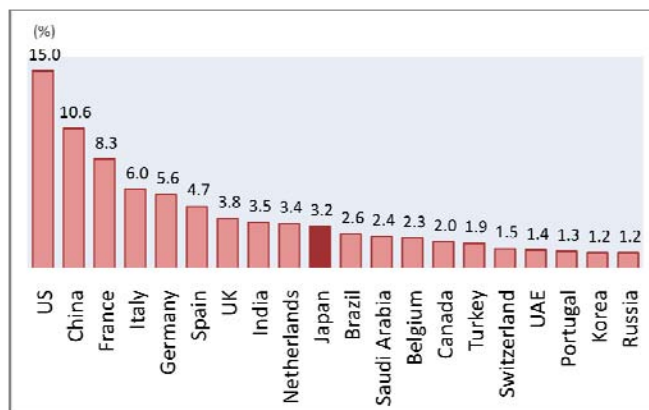
\*GDP at constant  
1990 price in USD

Source: United Nations Statistics Division

30

## アフリカにおける日本のプレゼンスは 不釣り合いに低すぎる！

アフリカの対域外貿易相手国(2008年、数字は全体に占める割合)



Source: UNCTAD, Economic Development in Africa Report 2010

31

## 日本がアフリカにおけるプレゼンスを 強化すべき理由

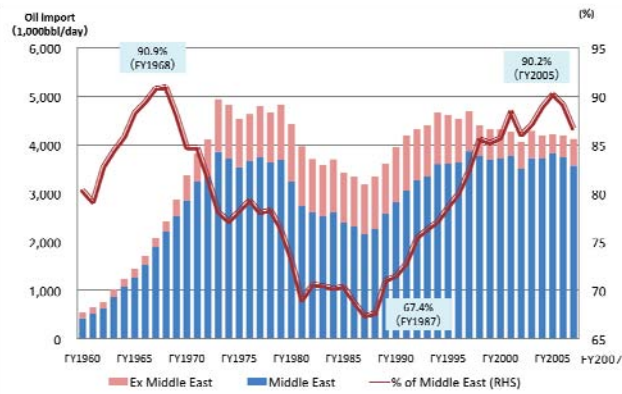
資源外交とエネルギー安全保障

主要エネルギー供給国の政情不安

32



## 中東原油への高い依存度

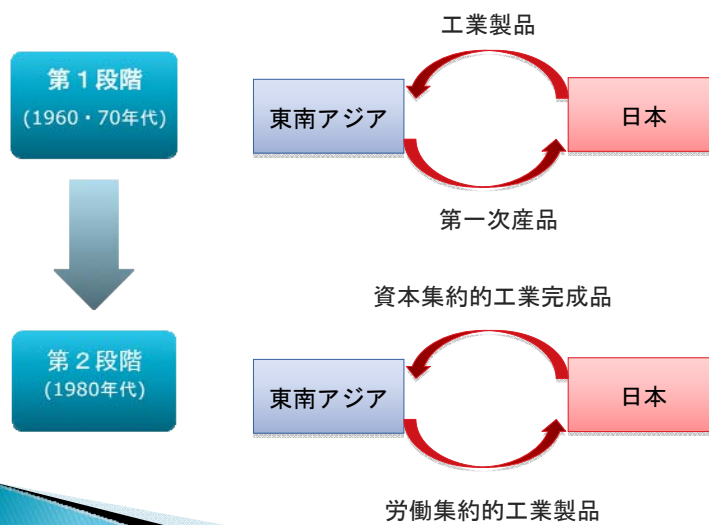


Source: Agency for Natural Resources and Energy (Japan), Energy White Paper 2009

➡ 供給源の多様化が急務

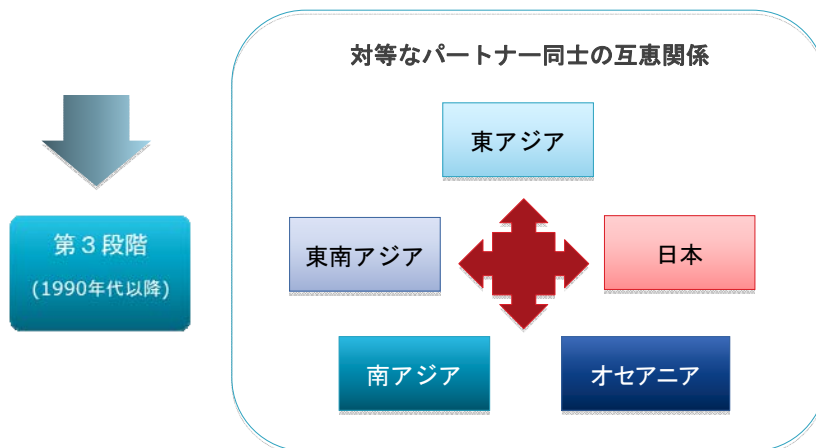
33

## 日本・東南アジア諸国経済関係モデル



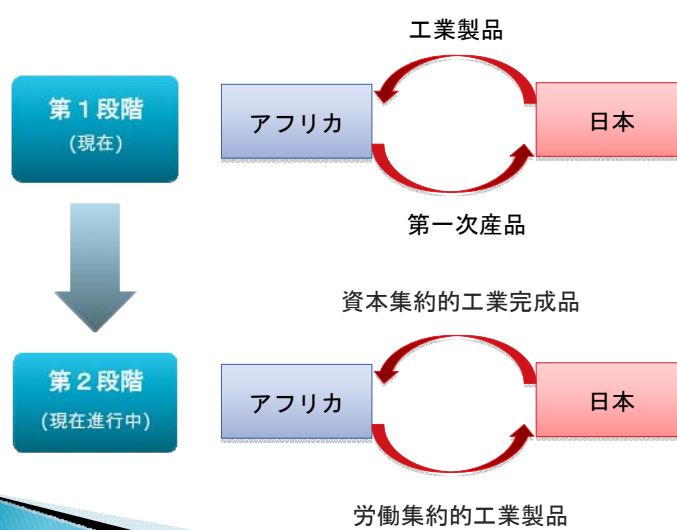
34

## 互恵的な地域経済圏の成立



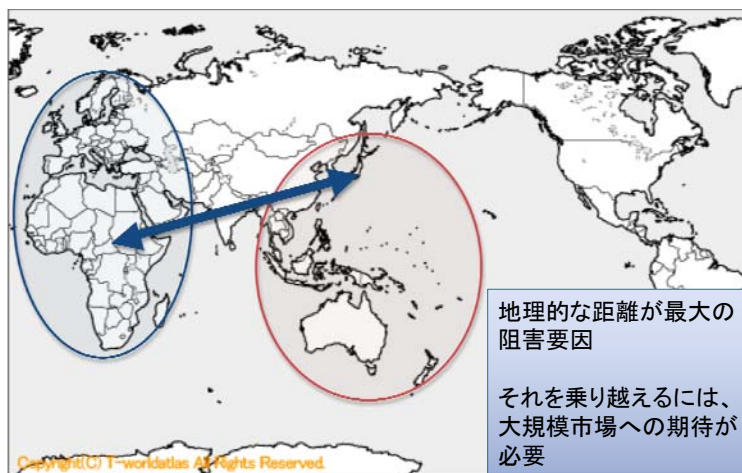
35

## 日本・アフリカ経済関係モデルへの適用



36

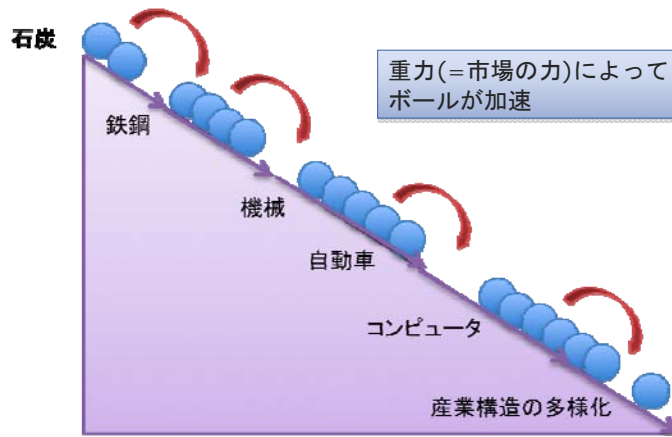
### 第3段階：地域経済圏の成立が鍵



37

### Ⅲ. アフリカ開発手法に関する新提案

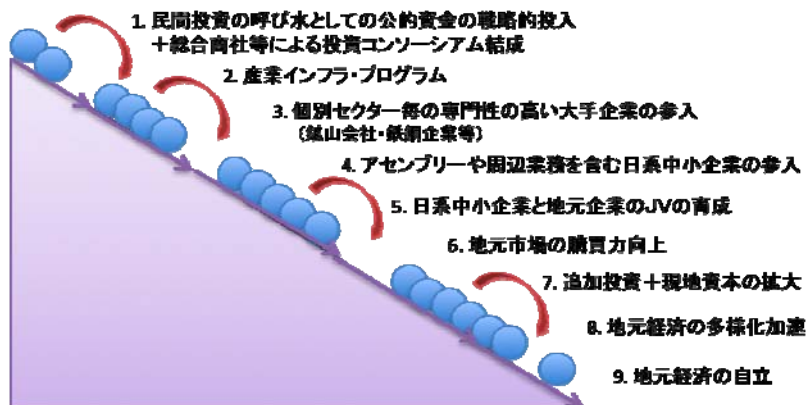
## 「傾斜生産方式」からの教訓



➡ アフリカの産業振興に適用できるか

39

## アフリカ経済立上げプロジェクトへの応用事例



40

**[付録] その後のマダガスカル：  
2009年からクーデター**



41

**大宇ロジスティクスに関するFT紙  
の誤報 (2008年11月18-20日)**

1. 99年リース契約に調印
2. 130万ヘクタールの耕作地を無料提供
3. 南ア労働者を導入
4. 大宇グループ会社の大宇ロジスティクス

42

## 事実 vs. FTの誤報 (記事執筆者: Javier Blas)

FT報道	事実
99年リースに調印	土地リース契約存在せず 対象耕地選定向け調査資料提供協力合意の覚書のみ
130万ヘクタールの耕地を無料提供	考慮されていたのは10万ヘクタール* マダガスカルに有利なリース価格を検討(有料のみ)
南ア労働者	現地労働者1000人に対し南アの高技術労働者1人以下の割合で導入許可を検討
大宇グループ会社の大宇ロジスティクス	小規模なスピナウト企業で、大宇グループと関係が切れてから既に10年以上経過 2009年7月現在倒産手続き中との情報有り (FT紙)

注) 2008-2009年に発表された世界の土地提供契約の最高規模は約40万ヘクタール。平均は10万ヘクタール以下。

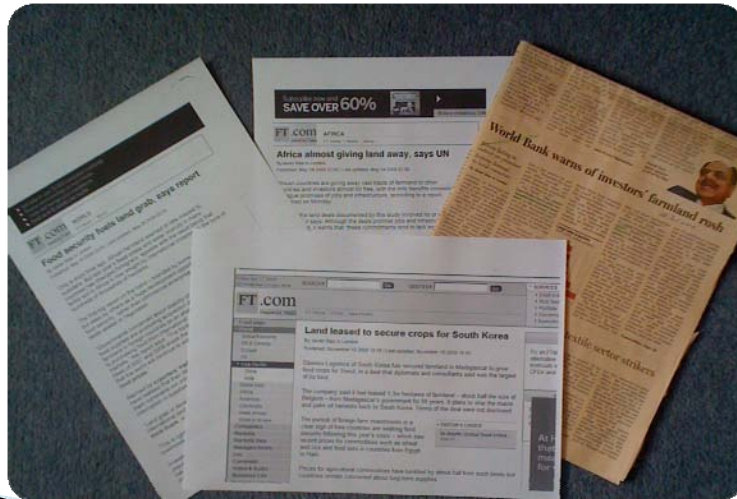
43

## FT誤報が与えたインパクト

- ▶ 無責任な引用の続出
- ▶ マダガスカルのカウデターを誘発
- ▶ マダガスカルが悪しき前例に
- ▶ 農業(食糧)投資  
=「食糧安全保障」の仮面を被った「新植民地主義」  
という単純論法が横行
- ▶ 日系企業を含むアジア系企業による農業事業への  
重大障害懸念

44

## FT誤報と継続記事



45

## THANK YOU !



お問い合わせ : [info@komatsuresearch.com](mailto:info@komatsuresearch.com)

46